
Amnesia

癒々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A m n e s i a

【Z-17】

N
7
9
0
3
M

【作者名】

癒々

【あらすじ】

「トウ、リヴェラ。」

私の名前。でも、私には空白が埋められない。

ミネル＝トゥ＝リヴェラ。

今の私の名前。これは、アリシアが付けてくれた。

：

色んなことが、少しだけ、少しずつ消えている。

記憶。それはとても貴重で、凄く壊れやすい。

私の記憶は碎けて散ってしまった。何故？覚えていない。

でも今は、記憶よりも大切なことがある。

そう、今私の目の前に居る、私を守ってくれる仲間を、死なせないこと……。

The ending
g world="the starting world

Prologue (前書き)

別サイトで投稿していたプロローグ。

一年前のggggっぷりを存分にお楽しみください。

…自分でもよくわからなくなってきた件（・・、）

Prologue

欠けた月が三つ、藍色の空にぽっかりと浮いている。

包帯の巻かれた右腕を押さえながら、私は***を追った。
何処に行くんだろう。

***は足が速い…あ、見失っちゃった…。
むう、でも魔力を追えば、遅くても***に辿り着けるはず。
夜のお散歩も悪くない。ゆっくりついていこうかな。

と、思っていた矢先、***の魔力の波動が消えた。
少し先から、血の臭い。それから、数十の魔力の影。
これは…

嫌な予感がして、走り出す。

でも、走って間もなく、体力が尽きて座り込む。

自分の体力の無さを恨む。今度***に鍛えてもらおうかな。

「しょうがない……っ」

立ち上がって、手を空に翳す。

怪我を負ったままの腕が、悲鳴を上げた。

痛みを無視し、魔力を足元に集め、そこに風を起こす。

黒くて長い髪が、足元の風で舞い上がるのを感じ、頃合を見て無言でジャンプ。

「あい・きゃん・ふらい！」なんて言っている場合じゃない。

***が危ないと、本能で感じていた。

地面から飛び立ち、まず上昇。少し経った後、魔翼が背に浮き出て

きた。

飴細工のような細い翼。

確認するまでもない。深呼吸をすると、一気に****の向かった方角に飛ぶ。

「****…！」

僅かに残っている****の魔力を肌で感じ、冷や汗をかいた。飛び立ってから数分、血の臭いが濃くなってきて、下を見た。目に映ったのは、赤い髪と…鮮血。

「****つ！…！」

声に気づき、****を囲んでいた魔法師は、一斉にこっちを向いた。

皆、黒いローブを羽織っている……昼間の人たちだ。

向こうは一斉に詠唱を始めた。炎、水、氷、大地……属性が多すぎる。

魔法陣が、彼らの足元に溢れ出す。

何故、攻撃するんだろう。

色とりどりの魔法陣の片隅で、****は呼吸していた……虫の息で。

****の赤い髪は、自身の血で鮮やかさを増していた。

この人たち…****になんてことを…。

そう思ったとき、私の中で何かが音を立てて切れた。

「……」

風を起こす。

光を呼ぶ。

助けなきゃ。

***を、助けなきゃ…！

「

」

幾つもの光の筋が、私を包んだ。

ズキン、と右腕が叫び声をあげる。傷口から、血が滲み出てきたことが解る。

でも、詠唱は止めなかった。

「

」

魔法師から、数万はある数の魔法が同時に放たれる。

しかしそれは、光の筋が一つずつ包み込み、光となって消えた。怯まずに、第二弾。炎が、私を襲おうとした。

…そう、この時。

この時、私の魔法は成立した。

空中に浮いたまま、手を祈るように握り締める。

背にあった魔翼が消え、金色に輝く光の粉となり、辺りを一瞬明るくした。

その一瞬の後

…

真つ暗。

何も、見えない。
何も、映らない。

闇の中で一人。

ここは…？

「**！」

誰かが呼んでる。うつん、叫んでいるみたい。
誰が？誰を？

「**！！」

聞こえないよ。聞き取れない…。
誰を呼んでいるの？
何も見えない…彼方は誰？

耳鳴りがする。

私は、何で此处に居るんだっけ…。

…苦しい。

怖い…。

此处から出して。お願い、出して…！
誰か…！

「**！！！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7903m/>

Amnesia

2010年10月28日07時00分発行